

私にとってのアフリカ子ども学
—文化人類学者の立場から

秋山裕之 (京都華頂大学)

ブッシュマン

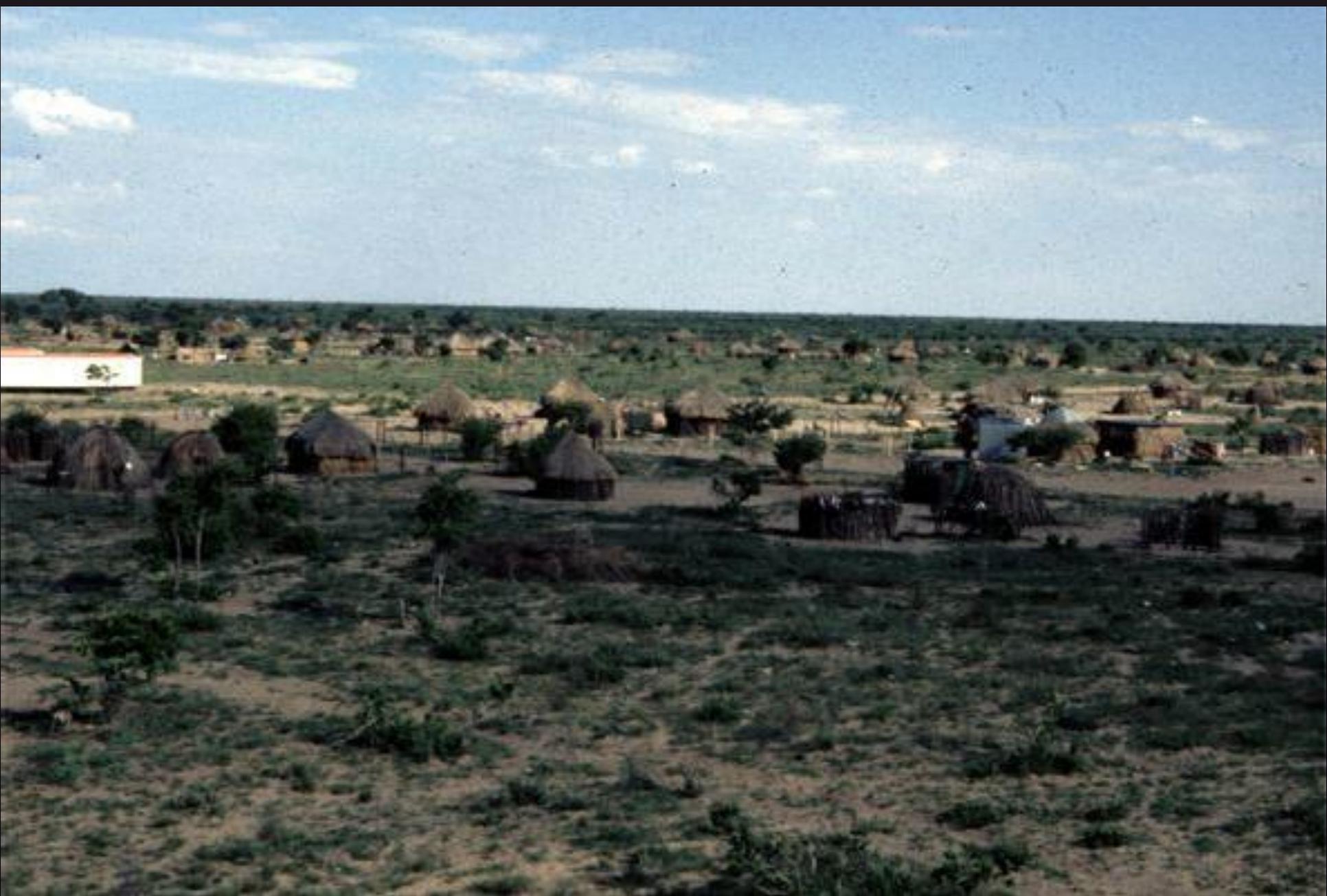
ボツワナ共和国 セントラル・カラハリ・ゲームリザーブ(CKGR)に
居住していたコイサン系狩猟採集民

1970年代末から政府の遠隔地開発計画により、カデ地区周辺に定住。
→学校教育開始、賃金労働・農耕・ヤギ飼養の開始

1997年、CKGR外に新しく作られた計画村ニューカデに移住。
→人口密度の増大、狩猟採集活動の衰退、牛飼養の開始







子ども研究のトピック 1

遊び

学習（文化習得・社会化）

学校教育

子どもの日常生活そのもの=子どもの民族誌









子ども研究のトピック 2

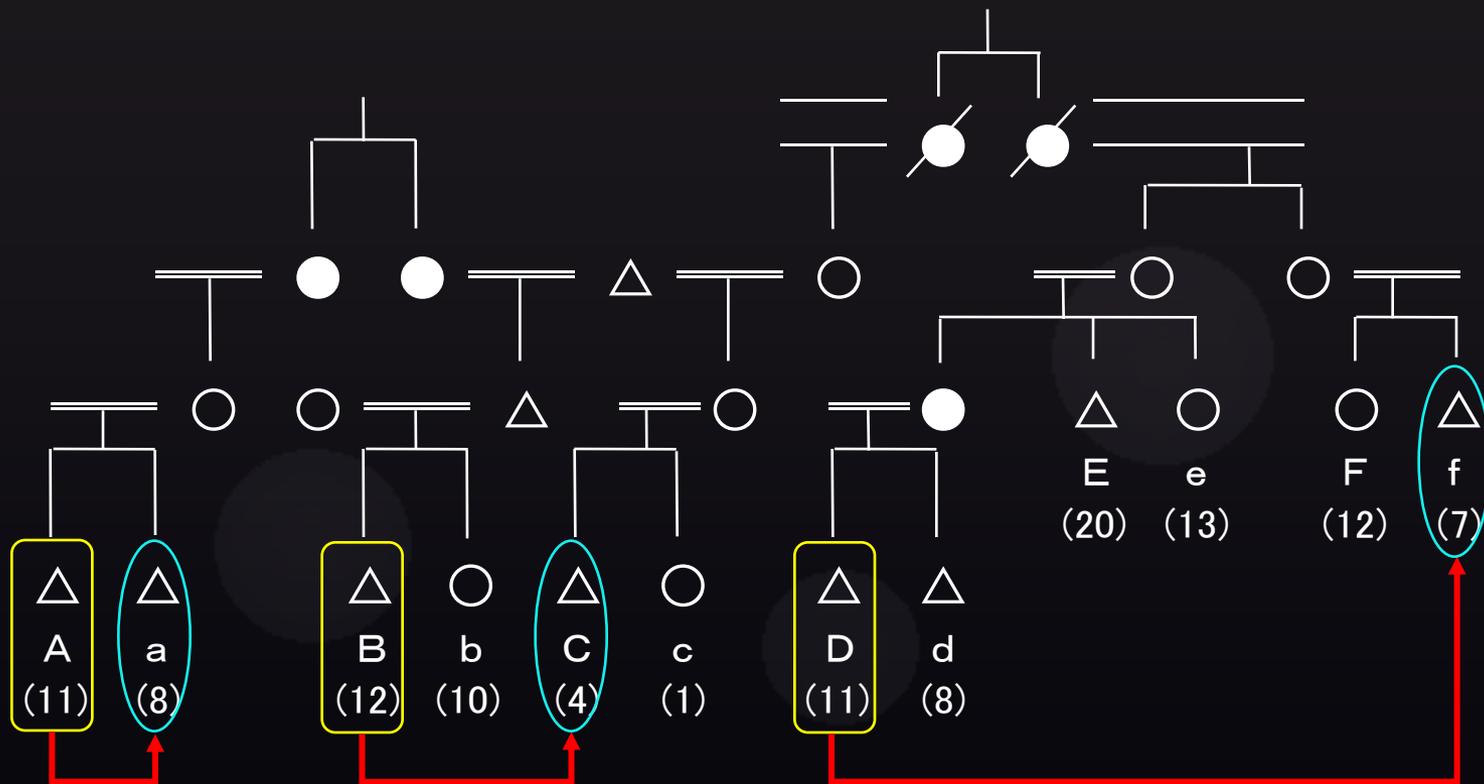
対人関係

地域社会との関係

社会/文化変容と子ども

子ども研究を通じて、社会全体について考える

子ども間関係 年長者から年少者へのケア



居住集団A 系図

※()内は調査時の年齢。キョウダイはすべて左側(大文字)が年長。

※黒塗りは同じキャンプに住んでいない人、斜線は調査時に亡くなっていた人を示す。

※キョウダイの全てを記しているのではない。

※子どもどうしの血縁を示すのに不要な大人を省いている。(C、Dの父親など)

なぜ、子どもなのか

社会の基礎単位としての家族/世帯

当該社会におけるChild Care System

大人はかつての子ども、子どもは未来の大人
→社会/文化の動態を描くための「世代研究」

私にとってのアフリカ子ども学
—文化人類学者の立場から

秋山裕之 (京都華頂大学)